

チェルノブイリ原発事故による日本国内の放射能汚染について、見知らぬ一般の方々から、よく相談を受けた。その多くは、小さな子どもたちを持つお母さんからで、母乳をやめて粉ミルクにしたほうがよいだろうかとか、子どもたちに牛乳を飲ませて大丈夫だろうかとかいったものだった。

そうした質問に対し、私は、おおむね以下のように答えてきた。

——今回程度の日本の汚染レベルでは、髪の毛が抜けるというような急性障害のおそれはないだろう。問題は、将来ガンや白血病にかかる率が大きくなるという晩発性の障害である。晩発性の障害は、たとえ被曝量がわずかであっても、それなりに生ずると考えられている。法令で一応許容量というものが決められているが、許容量以下だったら安

全、というわけではない。従って、余計な被曝は避けるに越したことはない。

しかし、今回の放射能汚染は、空気が、水をはじめ、身のまわりのほとんどのものに及んでおり、被曝を避けるという

り私たちに降りかかってきた危険と、被曝を避けるために払われる負担との兼ねあいだろう。

危険の大きさを将来生じるであろうガン死者の数であらわすと、日本に住んでいる一億二千万人のうち、たぶん数十人から数百人ということになるだろう。私たちは日常的

ろんだが、生活環境全体が汚染されてしまっている以上、今回の放射能汚染だけに余り神経質になってもしかたない

に牛乳を飲んでいて、いつもよりに牛乳を飲んでいて、いつまでも相談されてきたお母さん方にどこまで理解していただ

かでお母さん方が心配されるのは無理からぬものの、農薬や食品添加物、医療放射線に

原子力の抱えている危険性はたいしたことないなどと言っていると思われたとしたら、とんでもない誤解だ。放射能汚染を認めているわけではな

八千kmも遠くの事故だったことである。汚染による日本人の平均的な被曝線量は、私の見積りでは一年間ふんで全身線量約

〇・五レム、甲状腺線量約二十レムである。もしも日本の原発で事故が起きたならば、危険の大きさと兼ね合いなど悠長に考えている間がないことは言うまでもない



チェルノブイリ原発事故による日本の汚染をどう考えるか

でも容易なことではない。また、母乳を粉ミルクにしたとしても、いくばくかの被曝は避けられたとしても、母乳から粉ミルクにしたこと、マイナスを抱えてしまう。このあたりの判断は、放射能汚染によ

に、交通事故などさまざまな危険や農薬、食品添加物による汚染、さらには医療用放射線や自然放射線などにさらされていくわけだが、そうしたものと比較して、今回の放射能汚染による危険度がとりた

たか甚だこころもとないものであったが、たぶん最後の一言が一番印象に残ったのではないか。本紙の読者のなかには、交通事故や自然放射線などを引き合いに出して比較するのは、推進派の言っていることと同じでしからん、と思われる方もあるだろう。私としては、情報が断片的な

判断するより仕方ないだろう。私は考えている。そのためには、汚染の状況をいち早く把握し、その危険性を含めて人びとが承知するすべを備えておくことが必要だ。

今回の放射能汚染で私たちが日本に住んでいるものにとっ

◆講座として依頼し、以上の原稿をいただきました。講座というには個人的な意見の色彩が濃いものですが、「ひとつの問題提起」という筆者の言により、そのまま掲載しました。(編集部)

京都大学原子炉実験所 今中哲三